様式第２号（第８条関係）

会議録概要

会議の名称	平成３０年度　第３回第１９採択地区教科用図書採択地区協議会
開催日時	平成３０年　７月１３日（金） 午前９時３０分から午前１１時３０分まで
開催場所	羽生市勤労者福祉センター（ワークヒルズ羽生）２階　第１会議室
議長氏名	秋本　文子
出席委員	渡邉　義昭　　小林　義之　　増田　公子 春山　教子　　柿沼　拓弥
欠席委員	なし
会議次第	１　開　　会 ２　あいさつ　　第１９採択地区教科用図書採択地区協議会長 ３　議　　事 （１）選定協議 （２）選定の方法について （３）選定 （４）選定結果の報告について（事務局） （５）今後の予定について（事務局） ４　閉　　会
会議資料の名称	【 次第 】 【 資料 】埼玉県教科用図書採択基準
会議の公開又は非公開の別	一部非公開
非公開の理由	静謐な調査研究環境及び採択環境の確保のため
傍聴者の数	１１人
事務局職員職・氏名	羽生市教育委員会学校教育課長　細村　一彦 加須市教育委員会学校教育課長　藤間　隆子 羽生市教育委員会学校教育課指導主事　柿沼　宏充 加須市教育委員会学校教育課指導主事　齋藤　誠
会議録の作成方法	■　要点記録 □　全文記録
その他必要な事項	

様式第３号（第８条関係）

発　言　者	会議の内容(発言内容、審議経過、決定事項等)
細村学校教育課長	【開会】
第１９採択地区教科用図書採択協議会秋本文子会長	【あいさつ】 あいさつ　　第１９採択地区教科用図書採択協議会長
細村学校教育課長	【議事】 本日の資料確認 ・（本日の）次第 ・埼玉県教科用図書採択基準 前回の採択地区協議会で配布 【資料１】第１８・１９採択地区教科用図書研究調査報告書 【資料２】埼玉県教育委員会作成　調査資料　（小学校） 【資料３】埼玉県教育委員会作成　調査資料　（中学校） 【資料４】第１９採択地区各小・中学校、保護者調査研究結果報告書（小学校） 【資料５】第１９採択地区各小・中学校、保護者調査研究結果報告書（中学校） 協議の進行につきましては、第１９採択地区教科用図書採択地区協議会規約第９条第２項により、第１９採択地区教科用図書採択地区協議会長の秋本教育長 にお願いする。
秋本会長	議事、進行を務めさせていただく。熱心な協議をお願いする。 協議に入る前に事務局から委員の変更について提案がある。担当の齋藤指導主事にお願いする。
齋藤指導主事	仲山委員については任期満了により加須市教育委員を退任されたため、本日より　増田公子　教育委員が採択協議会の委員として代わることを報告する。なお、7 月 9 日に加須市役所において仲山委員から今までの協議内容の引継ぎを行ったので合わせて報告する。
秋本会長	質問等はあるか。
各委員	（質問等なし）
秋本会長	事務局より委員の交代についての提案となるが承認いただけるか。
各委員	異議なし。
秋本会長	それでは本協議会の公開についてお諮りする。採択地区協議会規約第 10 条により、この会の協議の部分は公開とする。後半の選定については公正・公平かつ本協議会の独自性を維持するため、非公開としてよろしいか。
各委員	（賛成の声）
秋本会長	賛成多数により、本協議会の協議の部分を公開に、選定の部分を非公開

	とする。 傍聴者を中へ案内するよう願う。
	（傍聴人の入室）　11 人　着席
秋本会長	それでは、選定協議に移る。 まず始めに小学校教科用図書について意見はあるか。
小林委員	今回教科書の変更は基本的にないものと理解し、各学校での先生方の評価・意見をたくさんいただいているので、それを十分に汲み取らせていただき自分の考えとして挙げたいと思うが、その中で特徴的なこととして 1 点、使い慣れているので使いやすいというコメントが印象的である。
秋本会長	他にあるか。
春山委員	小林委員からの意見にもあったが、小学校の教科書について今回もう一度、各学校の担当の先生のご意見をいただいた中で、使い慣れているという意見もたくさんあったが、やはりそれなりに課題はあるのではないかなと思った。前回も申し上げたが、ゆとり教育が変わり、教科書の分量が多くなって、ランドセルを背負う小学生には重いということが保護者の意見にもある。
秋本会長	他にあるか。
渡邉委員	今、春山先生もおっしゃっていたように、教科書は本当に良くなっていると思う。だが、その分だけ重くなっていることも事実である。今まで２分冊で前期・後期あったものが１分冊となって使いやすいということもあったかもしれないが、その分だけ重くなる。あるいは版が B5 版から段々と A４版になってきたということでの重さもある。そうした時に、学校に置いておけばいいという風に言われても、施設自体が３０年も４０年も前に作った学校であるから、どちらかというとロッカー自体も B５版に合わせてある。鞄も B５版が入る鞄が置けるロッカーとなっている。一番重要なのはまず、ロッカーの大きさをＡ版に変えなければならない。そうなると、ロッカーの数が減る。ランドセルも入るようなかたちにするというように工夫されたところは良いと思うが、そうでないと教科書を置いておけと言われても、置いておくスペースがない。そういうことも考えていくと教科書の内容以外に体裁と言うことも考えていかないとこれから厳しい状態になってくるかと。 良い教科書を使いたいけれども、良い教科書を活用するために子供たちが本当にそれで大丈夫かどうか、そこを考えていかなければならない。そういう点では体裁も大きなポイントとしてこれからは考えていく必要がある気がする。教科書にドリル的な内容をどんどん詰めていくと使いやすい。使いやすいが重い。

秋本会長	他にあるか。
柿沼委員	教科書を見せていただいたが、どれも良くできていると感じた。先生が進めやすい内容となっており、子供たちもワクワク・ドキドキするような期待感を持たせる教科書であること。そういう見方が２通りある。整合性をミックスしてより良い教科書を１９採択地区の子供たちに合ったものをしっかりと審査・選定をしたい。
秋本会長	他にあるか。
増田委員	各社とも甲乙付け難く、非常に良くできているが、その中でも教育現場の先生方の意見も必要かと思い、やはり学校の現場の先生方が使いやすい教科書というのがやはり教育していく上ではいいのかなと思った。また、先程御意見にあったが、ゆとり教育から抜け出すというかたちで教育の内容も授業など、非常にボリュームが増え、教科書が重くなってきて子供たちが負担になったりすることがあると思うが、教育の内容を落とさずに大きさや中身を減らせるような検討をしていただけたらいいと思った。
秋本会長	事務局からも意見を求める。
齋藤指導主事	教科書の内容に関しては前回の研究の時とほとんど変わらないということもあるが、教科書展示会に行った先生方は今使っているものがこのまま来年度も使いやすいかどうかという目で見てくださっていると思うので、現場の先生方の声も参考にしていただきながら検討していただければと思う。
柿沼指導主事	齋藤指導主事からもあったが、いろいろな教科書があって使い勝手等もあるかと思うが、やはり現場で子供たちのためにどれが使いやすいかというところの視点で是非選んでいただければと考えている。
細村学校教育課長	選定にあたっては、第１９採択地区の地域の子供たちの実態、また、第１９採択地区の学校の実態を十分把握して選定していただければと思う。
藤間学校教育課長	私も細村課長からあったような意見と同じであるが、先程、柿沼委員さんの方からも子供がワクワクするようなということがあったが、子供が見ても興味・関心を持てるような、内容が充実したもの。そして教師にとっては指導がしやすい。その両方の側面から選定していただければと思う。
秋本会長	小学校教科用図書について他に意見等はあるか。
渡邉委員	私の方から、これからのことも考えていくと、ぬかしてはいけないのは色彩だと思う。教科書が本当に色鮮やかで見た目が素晴らしいが、教科書によってはカラーのユニバーサルデザインを意識して作っているところがある。色覚に異常がある割合は４０人のクラスがあれば、場合によると男性の中で２，３人、女性はほとんど発症しないが、場合には１人発生するかどうかという状況である。３，４人の色覚異常の子供は発生すると思う。

	そういうことを考えている教科書が増えてきていると感じる。教員はそれをあまり気にかけていない。実質緑色の黒板に、青で書いている教員がいる。あれは色覚異常の子供は正直言って字は読めないはずである。緑の黒板に青で書いたってまず見えない。それで赤を使う。だが、これも見えにくい。色覚の感覚が教員も鈍っているが、逆に教科書会社でそういうのを意識しながらユニバーサルカラーを使いながらやっているということは、私たち教員は反省をして使っていかなければならない。同時に、教科書会社ではそういうところまで配慮している会社が増えてきているから、是非これからもどんどん増やしていっていただければ幸いである。 教科書会社の関係の方がいるかもしれないので、そういうところも意図しておいていただけるとこれからも嬉しいなと考え、発言した。もちろん、検定を通過しているので、どの教科書も良く出来ている。しっかり選んでいきたい。以上である。
秋本会長	他にあるか。
各委員	(特になし)
秋本会長	小学校教科用図書についてはよろしいか。
各委員	(賛成の声)
秋本会長	それでは今の意見を参考にしながらということでお願いしたい。次に中学校教科用図書特別の教科道徳について意見を求める。
春山委員	前回も話題になったことだが、別冊ノートがある会社とそうでない会社があるが、そこをどう考えるかということ。結論は出ていなかったと思うが、それとは別にしても、考え・議論する道徳ということを考えると教科書や別冊ノートに書く分量が多いところもあった。子供たち、生徒が書くことに専念する時間を多く使うことになる。それからもう一点、それが得意な児童にとってはよく書けるけれども、道徳の授業の中で考えられる価値ということからすると書く分量が多いと難しいと思う。
秋本会長	別冊のある教科書について、考え・議論する道徳としては書く分量を検討しなければということであった。
小林委員	いろいろな意見が上がったが、私自身が教壇に立って直接ということでもなかったので、どうしても学校の先生の評価をひとつひとつ理解したいと思って努めた。その結果として確かにどの教科書も好評だったと思うが、中学校の先生方の意見はある一社に特に好評だったように理解した。また、この教科書とは別のところで小学校の先生方の意見もたくさんあるが、いつも一社に集中している。そこはどういう意図かというと、よく理解したが小学校の先生方は小学校で副読本を使われていて、そこに慣れているということを表現している先生もいて、興味が深い。いずれにしても、中学

	校の先生方の意見から評価の高い教科書を積極的に使いたいという意思が見受けられた。それから、春山先生がおっしゃられたノートについてのコメントも出ていたので、興味深く見た。
柿沼委員	小学校の校長先生と中学校の校長先生の意見で見方が違うなというのがあり、先程小林委員から言っていただいた通りという感じがする。それから、付録のノートに関してうまく活用することによって授業をもっていきやすい、そして保護者との連絡の統一、生徒の採点をつけやすい、先生が教えやすい教科書もあったり、また、題目が後になってわかるという教材もあったり、どうしてなのと考えさせられるものもある。その中で前回も言ったが、ひとつ漫画のこと。二冊入っていたが、やはり勉強が得意な生徒とそうでない生徒がいると思うが、そうでない生徒にとっては漫画が息抜きになって、いじめを題材にした問題の漫画であったので、取り組みやすいと強く感じた。どれもよく出来た教科書だなと感じた。
春山委員	漫画のことであるが、わたしは漫画を読む世代ではないが、最近感じることは特に道徳の教科書ではそうであると思うが、理想的な良い価値観のことをテーマとしている時は別だが、自分の中で負の価値観「いじめられそう・いじめたいな」という様な負の心情を表す時には効果的なのかなという気がした。実物的なものだとあまりに価値観が一致してしまうような気がする。むしろ漫画の方が生徒たちにとっては表現しやすくなるかなという気がした。
秋本会長	他にあるか。
増田委員	どの教科書会社もよく出来ているなと思った。中には使いやすくて道徳が苦手な先生でも進めやすく出来ているような教科書もあった。その中でも、道徳というのは子供の色々な意見を引き出すというのが目的だと思うので、道徳の教科が国語になってしまっては意味がない。そのところを踏まえて概要的に丁寧に進め方が書いてあるところもあるが、子供たちの実態に合わせて意見を色々考えさせ、色々な意見を引き出せるような教材がいいと思った。以上である。
秋本会長	他にあるか。
渡邉委員	少し長くなると思うが、道徳とはなんだろうというところから話をさせていただく。例えば道徳で学習する時に一番重要なのは道徳的価値観・道徳的判断力という「道徳的」という表現を使う。算数・数学などでは「数学的思考」などと言うが、この時「数学的思考」というのと「道徳的判断力」では同じ「的」でも若干意味が違うような気がする。というのは、「数学的思考」というのはひとつの道筋をきちんと論理的に説明できるような見方をするわけであるが、「道徳的」と言った場合にははっきりしたもの、

「これが正解である・これは不正解である」というようなものではなくて、そこの心の葛藤「これはやっていいのかな」「いや、そうではなくで、これではないかな」という色々な葛藤があって自分の価値観を更に高めていく、そういうような部分が道徳的の「的」という部分になるのではないかという気がする。つまり、道徳が中学校の教科書にはなるが、やはり他の教科書と少し違うところもあるのかなと考える。論理的に「こうなっているからこうだ」という道筋がはっきり分かるようなことが必要というよりも、そこで色々な葛藤ができるようにする。それから、先程漫画というような表現を使ったが、それは漫画を使ったほうが「色々な葛藤や色々な考え方がしやすい」あるいは「自分の考え方を出しやすい・見やすい」ということが基にあるのかなという気がする。

道徳的価値観を高めるためにどんな授業をしていくかということが今度入ってくると思う。どういう授業をしていくのが、道徳的価値観が高まってくるかといったときにはやはり、子供たちに葛藤があるようなかたちのもの。すなわち結論は見えないけれども、この価値があるという場合である。この道徳の資料の中に同じ資料を提示している別々の教科書会社がある。杉原千畝さんのものがあったが、リトアニアという国の地図を表示するときに「ヨーロッパの中のここである」という表示、矢印を入れて、矢印が意味を持って日本を中心に日本からオーストラリアやアメリカという関係を示そうとしているものもある。このようないろいろな資料を提示している。

教員の使いやすさということもひとつあるが、採択地区協議会として「どんな道徳をやってほしいのか、どういうことをやってほしいのだ」と言うことも大切にしたい。一番のヒントだったのが、増田先生がおっしゃった「道徳と国語は違う」ということ。文章が上手にいっぱいきちんと入っているからといって、数字を流してみていけるからいいというだけではなく、そこでの葛藤を求めていくというかたちでいく教科書でなければならない。そうなった時にこの第１９採択地区では、どんな道徳をやってほしいのかということも大きく影響してくると思う。先生たちに「こういう道徳をやってください」ということを言う、すなわち、表題があってその表題を見て「子供たちは中学３年生だ。今日は友情のことだから、友情のことをうまく表現すればよいかな」という気持ちを持たせるような授業であると道徳的な価値観は生まれると思えば、表題は「このことをやっていたら、このことを考えなくてはいけないな」という中で友情という部分に深化されていくというようなものを要求するのか。そういうことを考えていったときに、「では道徳はどういう授業をやっているのか」という、最初にやる

	のは、この文章の中で「今日はこの人とこの人が出てくるから、この人のことについては考えていきたい」というような道徳を要求して葛藤していく。すなわち、「この人に対して考えていくのか、こっちの人に対して考えていくのか」によって道徳の授業は大きく変わってしまう。そういう点では、そういうことが明確化されている。あるいは意図されているというのが大切かという気がする。そういうことを考えていったときに、付録はどうするか。付録を見て、もう先生が居なくても自習ができるようであれば、それは書き過ぎである。道徳のノートとしてはやり過ぎ。このノートを全部使うのではなくて、「ここにだけ自分の気持ちを書いていきたい」というそういう使い方ができるノートであったならそれは価値が高い。ノートも、ノートが良いか悪いかではなくて、「どういう風に活用するのがこのノートだったら良い、どういう風に活用するのがこのノートだったらやり過ぎである」ということ。教科書であったら逆に丁寧になり過ぎてしまう。「道徳と国語とは違う、道徳と数学は違う」という部分が私はあるのではと思う。 どうしても「やり過ぎてしまっている、或いは不足している」ということのかたちで自分がこの校長先生たちに要求していきたいという教科書を選んでも良いのではないかなと。先生方の意向も大切である。であるが、この６人の意向がさらに活かされていっていいのかなと思っている。長くなったが、中学校の道徳の教科書については初めてであるので、そこはきちんと自分の意図で考えているということだけは話したかった。
秋本会長	事務局からも一言お願いする。
齋藤指導主事	どの教科書もすばらしい教材・資料がそろっているので、なかなかこの一冊、この一社と決めるのは難しいという印象をもっている。この教科書のこの資料を使いたい、これも使いたいというどこの学校も選りすぐって自分もこれをやりたいというようなものもあってなかなか決めるのは難しいが、先程も話があったように加須市、羽生市で中学生の心を育てるという意味でどういう教科書を使っていったらいいのかを大事に選定していただければと思う。よろしくお願いしたい。
柿沼指導主事	子供たちの実態を大事にしつつも、３つの視点を大事にしていきたいと思った。１つ目はすばらしい教材が揃っているが、まずそれが子供たちに自分事として理解できるかというところである。やはり自分事ではないと、道徳の授業も空言になってしまうので、そこをどうするかという点。２つ目は教材中に、子供たちが自分事として捉えた後に揺さぶるような、先程渡邉委員の話にあったように葛藤を生むような発問があるか否か。３つ目は評価についてである。かなり工夫を凝らした評価について各社あったが、その評価の方法・量は適切か。そしてそれをフィードバックしていかに子

	供たちによく考えてもらうかというところ。この３点をぜひ考えていただければと思う。
細村学校教育課長	第１９採択地区すべての生徒にとって、道徳の教育的効果がより期待できる教科書、「教育的効果」という視点でもぜひ選定していただけたらと思う。
藤間学校教育課長	今回道徳が教科化になる理由であるが、何が起こるかわからないこれからの時代を生きていく子供たちの土台を作るというところに帰すると思う。これまで年間３５時間授業をやってきているけれども、「なかなかいじめの問題はなくならない、自ら自分の命を絶つような子供たちがなくならない」というような実態を踏まえて、これは道徳で何とかしなければいけないというところから道徳を見直そうということで今回の教科化ということになったと思う。 これまでの教え方や副読本にあるような資料が悪いというわけでは全くなく、ただ、これまで通りの教え方だけではなかなか子供たちを変えることはできなかった。そういったところでこれまでは、読み物に出てくる主人公に自分を重ねて考えさせるような授業が中心だったと思うが、それに加えて問題解決的な学習が出来るようなもの、また、体験的な学習が出来るものをうまく織り交ぜて年間３５時間の授業を組み立てて、より良く子供たちが自分のこととして捉えながら、多面的・多角的に物事を考えて、道徳的諸価値の理解の下に道徳的な判断力や心情、実践意欲と態度を育てようということになっていると思う。 これまでの授業スタイルの中には、先程国語というような話があったが、単純にストーリーを追ったり、出てくる主人公の気持ちを単純に追ったりするような授業をやっている先生がいなかったわけではない。それでは子供たちが自分のこととして捉え、様々な友達の意見を聞きながら考えるには至らなかった。 そういった授業を変えていこうということで今回の教科化になっていると思うので、色々な考え方ができるような、より自分のこととして考えられたり、物事を多面的・多角的に捉えられたりするような教材が織り込まれている教科書を選定していただきたいと思う。
秋本会長	第１９採択地区の子供たちと先生たちが新たな特別の教科道徳として新鮮な感覚でやっていただく。子供たちが心の葛藤をしながら、考え・議論し、１時間が終わったときには自分の心の変化があったり、成長があたり、こういうことに気付いたり、１時間１時間を特別の教科として子供たちが今までと違うという気持ちになって、また新たにより良い成長を期待したい。そういった目で採択したいと感じている。

	他にあるか。
小林委員	先程「現場の先生方の意見を重視して」と申し上げたが、別の観点で、自分でこれを読んでどう感じたか。２つ印象的である。１つは同じ項目について学年をずらすと６社で扱っているテーマがある。基本的にはその内容は同じであるが、その後のまとめ方の提案に大分差がある。少なければ淡白と言えるかもしれないけれども、むしろ考える余地を残すともいう。多ければ丁寧と言えるけれども、くどいとも言える。あるいは考えを誘導し、それ以上の発展性はないとも言える。どこがいいかというバランスが大事だなという感じが印象としてあった。 ２つ目は、扱っている内容は非常に感動的なものがあるなと感じた。読んでいてはまってしまう、流されてしまう。それなりに意味が大きい、道徳ならではの教育が出来るポイントではないかと思った。
秋本会長	他にあるか。
春山委員	今の小林委員の意見の中で、どの会社も工夫して感動的な話がそれぞれあって、本当に取り上げたいと思うものがどの教科書にもあると思った。特に私としては、観点の中の内容のところの現代的な課題などの題材・教材として取り上げる上での効果的なことがあるけれども、現代的な課題というのは、今のグローバルな社会においてたくさんの課題があり、例えばいじめの問題や情報管理の問題など、そういうこともあるし、環境問題や持続可能な社会の雇用体制ということまで本当に幅広く取り上げられており、生き方を考える上でも子供たちにとってそれぞれがいい教科書であり、決められない・選択しづらいと思った。 先程、事務局の先生方から道徳的価値観という話があり、本当にその通りであると思ったが、ただ、今このグローバルな社会の中で道徳的な価値観というのはそれぞれ人によって違うということがあると思う。本当にそれぞれ人や国によって考え方が違うので、これが正しいというのがなかなか…。「私はそう思っても、みんながそうとは限らない」そういう中で、授業の中で本音が出せる、いじめだったら「僕は、本当にいじめはしないにしても、傍観はしてしまったかな」というような本当に自分の本音が出せる授業という価値観を高めることもそうであるが、その中で本音が出せて「そうか、そういうこともあるんだ」とその価値観も認められ、もう一度こういう価値観も認められる。難しいとは思うがそれでも、色々あるけれどもお互いにやはり共存していく。それぞれの価値観を認めるのは難しいことであるけれど、そういう考えもあるのかと言いながら、考えていけるというそういうところで、教材が最後結末までストーリーになっているところと途中で区切れており、この後どうなっているのだろうと問題提起し

	ているような教材もあったりして、少し外れてしまうが、そのところも今自分自身は例えば、若いお母さんたちと討論をするときに、本当に色々な価値観がある。そのお母さんたちの子供であるからいろいろな価値観があると思う。その価値観を「こっちはいい、こっちはいけない」というのではなくて、みんなそれぞれが同じ土俵の上にのって、意見を出し合えるようなことを難しいが目指さなければならない。道徳の中でもみんなが認め合えるようなものを、どれもすばらしいが目指したいと思う。この道徳の教科書を作るのはとても大変だと思うし、価値観が変わっているからこそ難しいのではないかなと思った。
秋本会長	他にあるか。
柿沼委員	子供の価値観というのも大分差があると思うが、本を読む人にとって道徳の授業は自分が入っていく部分・感動する部分が違うと思う。その中でひとつでも入っていければいいのかなと思う。子供たちを見ていて、この加須・羽生の子供たちは東京の中心で育っている子供たちとはやはり違うと思う。見るもの・考え・感じるものが違うとそういった差があり、同じ教科書でもそこが当てはまるのか違うのかであるけれども、この田舎で育った子供たちが心を揺さぶられるようなそんな教科書を選んでみたいと思う。
秋本会長	他にあるか。
渡邉委員	今回の教科書を見ていて、「オリンピック・パラリンピックの選手への努力・工夫」そういう題材になっているものが多い気がする。しかし、現実的に中学校は部活動の時間をどうするかというような課題が出てきている。そうするとまさに文部科学省が「オリンピックに参加できるような有能な選手を育てよう世界に通用するようなすばらしい選手を育てよう」ということを目的にしながら、「部活動でやりすぎていたら駄目である」というような、結果から言うと、教員の働き方改革ということも含めてはいるが、両方言っている。そういうような葛藤を生み出す傾向が今回の道徳には若干出てきそうな気がする。場合によっては「ここの道徳はこれをやっているのに、先生は何で部活動をちゃんとやってくれないの。私はもっともっとうまくなりたいのに」という意見が出てきそうである。そういう点では悩ましい教科書が多くなってきているということもある。 性質的な部分と合わせると、道徳的部分というところで、そういうものを全く抜きにして考えればいいのだろうけれども、現実的にはこれからそれが入ってくると思う。東京オリンピックがあるので、それが華やかになってくる可能性があると思う。素材によっては難しい部分も出てきそうだなと思いながら、どうやって扱っていくのかこれもひとつの方法であるの

	で、ひとつの苦悩でいいかとも思うがオリンピック・パラリンピックに視点が行き過ぎているような気がした。
秋本会長	他に委員の皆様からはあるか。
各委員	（特になし）
秋本会長	よろしいか。意見・考えは全て述べることができたか。
各委員	（賛成の声）
秋本会長	それでは協議は以上で終了とさせていただく。なお、ここで10分間の休憩とし、10時35分より協議を再開する。休憩後の選定については採択協議会規約第10条により非公開となるので、傍聴者の方は退席を願う。
	【選定】（非公開） 【選定結果の発表・確認】
秋本会長	これで、本日の議事全てが終了した。皆様の御協力により、円滑に終了することができた。これで議長の任を解かせていただく。
細村学校教育課長	【閉会】

会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

平成30年8月31日

署名 秋本文子

署名 渡邉義昭

署名 春山教子